

オオホシクサ

Eriocaulon buergerianum Koern.

岡山県：準絶滅危惧

環境省：該当なし

被子植物門 単子葉類

ホシクサ科

選定理由

ツクシクロイヌノヒゲと分布傾向が似ているが、それより数も産地も限られている。そのため今後の状態には十分注意が必要である。

存続を脅かす要因

管理放棄、水質汚濁、自然遷移

分布状況

台湾、中国、本州（近畿以西）、四国、九州、琉球に分布。岡山県では、主に南部の湿地や貧栄養なため池の湖岸に希に生える。産地、生育量ともに限られている。



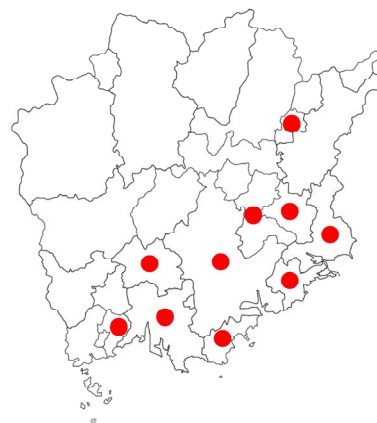
撮影：波田善夫

生育情報

無茎の一年草。葉は多数、皮針状線形、長さ8～20cm、基部の幅5～8mm、13～17脈の格子状、先端はやや鈍形。花茎は多数、高さ15～30cm、5～6肋ですこしねじれる。シラタマホシクサ（岡山県には分布しない）に似ているが、葉が広く、頭花の白色の短毛が少ない。つまり花苞の上半部背面には白色の短毛が多いが、萼には上縁にあるだけであり、花弁はみな同長で、外方の1個が特に大きいことがないので区別できる。葉の広いことはヒロハイヌノヒゲに似ているが、花床に毛があり、花苞の上半部背面に毛が多いという違いがある。

文献番号 76, 128

(波田善夫)



ホシクサ

Eriocaulon cinereum R.Br.

岡山県：準絶滅危惧

環境省：該当なし

被子植物門 単子葉類

ホシクサ科

選定理由

人間の生活圏に生育しており、農業形態の変革（ほ場整備、化成肥料の普及による富栄養化、除草剤などの影響）に十分な注意が必要である。

存続を脅かす要因

ほ場整備、土地造成（農地造成）、水質汚濁、農薬汚染

分布状況

本州から琉球、朝鮮、中国、台湾、フィリピン、インドシナ、インド、アフリカ、オーストラリアに分布。岡山県では中部、南部の水田耕作地帯を中心に、範囲としては広く見られるものの、生育地や生育量は少ない。



撮影：波田善夫

生育情報

和名の語源は花序が水滴状に見えて、星をちりばめたようになることに由来している。無茎の一年草で、葉は束生し、線形で長さ3～8cm、下部の幅1～2mm、3脈があり、格子状、先はのみ形になる。花は8～9月。花茎は高さ4～15cmで、肋はほとんどなく、ねじれない。鞘は長さ1～2.5cm。頭花は卵状球形で径4mm内外、灰白色または淡褐灰色。湿地、または水田では乾湿地ともにはえ、地表水のある管理休耕地にも水草の様に生育する。

文献番号 76, 128

(波田善夫)

